



第1回 産産協議会の事業報告

令和5年1月25日

日本循環器協会（JCA）は賛助会員企業の交流の場として、第1回産産協議会（多田荘一郎WG長）を2023年1月18日(水)に開催した。これはJCA設立後1年半にしてはじめての対面式の交流会であり、JCAと賛助会員の双方が利益を得られる関係づくりを構築するための意見提言も兼ねた会合となった。また、本会においては参加者全員が当事者意識をもって発言し双方向で議論ができるよう、少人数グループに分かれてのグループ討議と総合討議を組み合わせたWorkshop形式を取り入れた。約2時間にわたる討論の結果、合計14カテゴリー、108件の意見が集まり、盛況のうえで終了となった。第2回の会合では、今回得られた意見をどのように実行に移すかについて討議をする予定である。

第1回産産協議会 概要

日時： 2023.1.18（水） 18時10分～20時15分

会場： 東大病院入院棟B 会議室1,2,3

参加者： 賛助会員22社から25名（発起人3名を含む）

アジェンダ：

- | | | | |
|--------|--|-----------|-------|
| 18時10分 | 開会の挨拶 | JCA 幹事； | 原田睦生 |
| 18時10分 | JCAの目指す姿について | JCA 代表理事； | 小室一成 |
| 18時20分 | 会の目的と期待成果に関して | JCA 幹事； | 原田睦生 |
| 18時25分 | 本日の進行方法について | 進行役（発起人）； | 飛田信一 |
| 18時30分 | 3グループに分かれてグループディスカッション開始 | | |
| | 1. 自己紹介 | | |
| | 2. 賛助会員として勧誘したい企業について | | |
| | 3. 次なる進行役をじゃんけんで決める | | |
| | 4. 本題；「自社の賛助会員としてのメリットを最大化するためにJCAに期待するもの」 | | |
| 19時25分 | 総合討論 | 進行役（発起人）； | 多田荘一郎 |
| 20時05分 | 総括 | JCA 代表理事； | 小室一成 |



参加企業一覧

- 1 第一三共株式会社
- 2 ノバルティスファーマ株式会社
- 3 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
- 4 トーアエイヨー株式会社
- 5 アムジェン株式会社
- 6 エドワーズライフサイエンス株式会社
- 7 GE ヘルスケア・ジャパン株式会社
- 8 アボットメディカルジャパン合同会社
- 9 株式会社ツムラ
- 10 ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
- 11 アストラゼネカ株式会社
- 12 ヤンセンファーマ株式会社
- 13 テルモ株式会社
- 14 ヴィアトリス製薬株式会社
- 15 小野薬品工業株式会社
- 16 株式会社 明治安田総合研究所
- 17 大塚製薬（株）
- 18 日本イーライリリー株式会社
- 19 アルフレッサ株式会社
- 20 ブリストル マイヤーズ スクイブ株式会社
- 21 ニプロ株式会社
- 22 日本アビオメッド株式会社

JCA 参加者一覧

- | | | | |
|---|-------|------|---------------|
| 1 | 小室一成 | 代表理事 | 東京大学 |
| 2 | 多田荘一郎 | 理事 | GE ヘルスケア・ジャパン |
| 3 | 加藤大策 | 理事 | 明治安田総合研究所 |
| 4 | 弓野 大* | 理事 | 医療法人社団ゆみの |
| 5 | 石津智子* | 幹事 | 筑波大学 |
| 6 | 原田睦生 | 幹事 | 東京大学 |

* 患者連携委員会としてオブザーバー参加

第1回 産産協議会の様子①

「JCAの目指す姿について」小室一成



グループディスカッション (A)



グループディスカッション (B)



グループディスカッション (C)



まとめA



まとめB



まとめC



第1回 産産協議会の様子②

全体討論 (B)



全体討論 (A)



全体討論 (C)



全体討論



記念撮影



アンケート結果

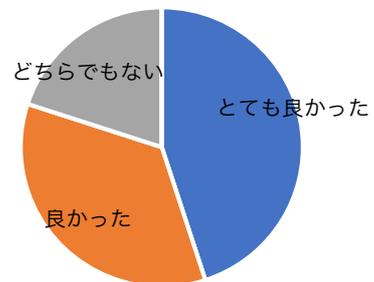
[全体の感想]



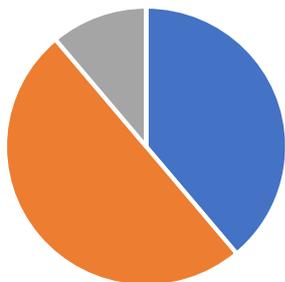
[テーマ]



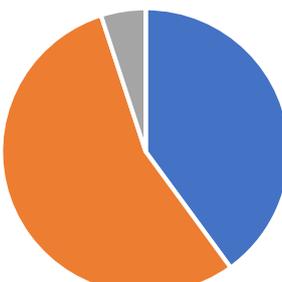
[日時 (夜間)]



[時間 (約2時間)]



[構成 (グループワーク→総合討論)]



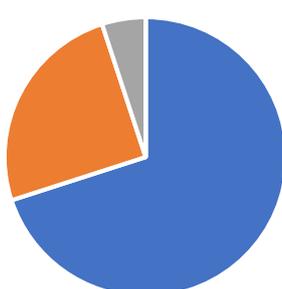
[自身のグループの活気]



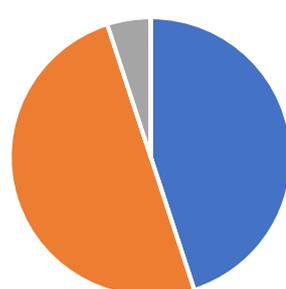
[自身のグループのアウトプット]



[グループワークの感想]



[総合討論の感想]



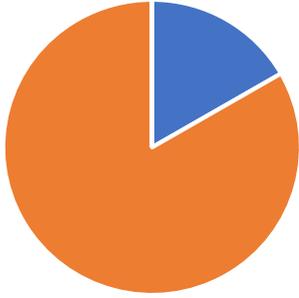
アンケート結果 (グループごと)

自身のグループの活気

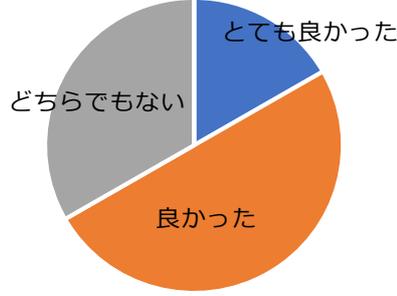
自身のグループの
アウトプット

グループワークの感想

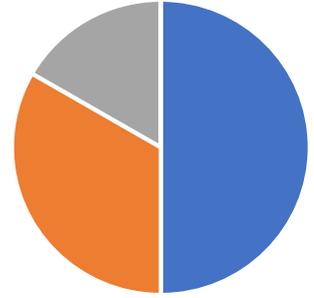
グループ
A



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

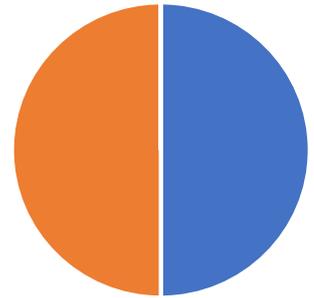
グループ
B



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

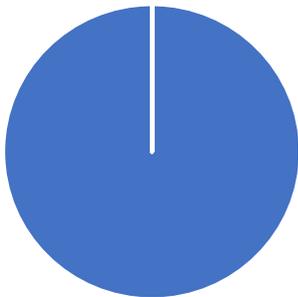


■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

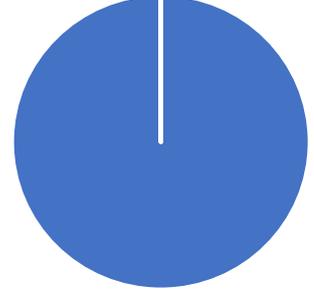
グループ
C



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5

フィードバック (アンケート結果)

- 初回としては大成功だと思います。参加者は会の趣旨を理解でき、少なくともグループのメンバーとコミュニケーションはとれたと思います。
- 協会に加入して初めてほかの企業と話す機会ができて非常に有意義だった。決められた時間内で意見を出し合うのは難しく、**もっと他の企業が循環器の分野も含めて何をやっているのか話をいろいろと聞きたく**なった。
- 会社の枠を超えて、同じ目標を掲げたテーマにて多くの方とディスカッションできたことは、**とても貴重で良かった**と思います。グループワークの結果を見ても、**いくつかのテーマ=共通意見**があることもわかりました。
- 短時間でリズムも良く、時間対効果が高いと感じました。
- 参加企業それぞれの課題やJCAへの期待が出揃った感じがして良かった
- 発起人の方々の仕切が非常に上手でしたし、各グループでのディスカッションも熱量があったと思います。参加された方々も、**企業の枠を超えたアイデアをディスカッションで**できることは、**毎日の企業内業務にはない「やりがい」のようなものを感じた**のではないのでしょうか。
- 各社、**自社のことではなく協会のこと、世の中のことについて活発にお話されて視野が広がりました**。またリアルでの開催でしたのでその後の名刺交換などができ有意義でした。
- 日頃聞けない他社さんの考えや協会様に求めることなどが聞けて非常に参考になりました。**医療業界で感じる課題感は皆同じ**（又は近い）なんと認識することも出来ました。
- 参加者の見方や考え方を知ることができ、とても楽しく勉強にもなりました。小室先生の冒頭のお話し（JCAは学会・財団・他の協会ができなかったこともやる、AHAのようになる、等）を拝聴し、**原田先生やWGリーダのご説明（自社の利益のみ考えない、患者の利点・医学の発展を考える、肩書・所属企業にかかわらず、等）を受けて方向性がクリア**になりましたので、**循環器病患者のみならず国民の健康に貢献するために必要な「JCAに期待するヒト・モノ・コト」**を参加者の皆さんと整理することが出来たのではないかと感じています。**これからの時代に生き残る「変化できる企業」になれるようJCA賛助会員企業がお互いに協力して乗り越えていければ**と思いますし、JCAの産学連携をベストプラクティスとして他の協会にご紹介できるようになればいいなと思いました。
- 協会の活動に対し、**各賛助会員がそれぞれがどのように考えているのか理解でき、いい機会**でした。今後、協会の目的を（メーカーも同様ですが）を達成するために、取り組んでいかねばならないことを提案し協業していければと思いました。そのためにもこれまでとは異なった視点でアイデアをだして実行に移す必要があると痛感しました。今後ともよろしく願いいたします。
- 賛助会員間の交流、意見交換行えたことは有意義でありました。
- グループワークの際、多田さんの進め方のおかげかもしれませんが、皆さんが積極的に意見を出される点がよいと感じました。
- 企画をして頂きどうもありがとうございました。他の企業の考えを知ることができるまたとない機会になりました。各企業とも興味が様々異なるなかで束ねていくことは難しさもあると思いますが、今後も定期的に続けていけると良いと思います。
- 皆さん企業の枠を縛られずディスカッションされていたので有意義な時間になりました。また大変勉強にもなりました。
- 各企業の考える協会様への期待感について、シェア出来た貴重な機会となりました
- 対面の方がはるかに話しやすいし一体感を感じた。
- 他の会員の意見が聞けたのが良かったです
- この度はこのような企画を頂きありがとうございました。今回の議論で挙げた内容を継続して話し合い、実現できるところから実行していければと思いました。今後ともよろしく願いいたします。

改善の提案 (アンケート結果)

- 最後個別に行っていたが、会の後に**名刺交換**といった交流の時間を設けてもいいかと思った
- グループワークの**ファシリテーションが想定コメントを誘導するような投げかけ**だったので、参加者個人の意見を語らせるようにできればもっとよかったと感じました。
- 今回の多くの意見に対する**フィードバック**を頂けると良いと思います。我々も有難いですし、今後の参考になるとと思います。(多くの意見があり整理も大変かと思いますが)
- 改善提案ではないですが、**今回の結果をどう活かすかが重要**と考えます。例えば次回に、今回のアウトプットのフィードバックの機会を設ける等により、今回のアウトプットを実際に活かす検討の機会がありましたら、より役立つと考えます。
- 今回洗い出されたテーマを区分し、それぞれ2テーマずつ程度を検討し、**他の委員会に提案していく**ような取り組みにつながるといいと思います
- 参加企業様の企業活動(循環器疾患への関わり方や提供している商品等)が異なるので、議論に入る前に、**議論テーマに関する業種間の認識合わせが必要**かと感じました。
- 時間の関係上、最終討議が若干慌ただしく感じました。**他グループの討議内容についてもう少し色々な意見が聞けたら尚良い**と思いました。
- 当日配布されました資料の2枚目「日本循環器協会における企業行動憲章」は初めて拝見しましたが、JCAホームページに掲載されたほうが良いと思います。JCA設立趣旨がどのようであっても、意思決定権をもつ企業やコンプライアンスが緩い企業が集まる可能性のある会議体への参加は躊躇されますので、この資料は安心材料になります。←註：対応しました(原田)
- 当日も**協会の委員会等での取り組み**を示されていましたが、実際どのような議論がなされているのかは詳細はわかりません。具体的な議論や状況がわかるとメーカー側がどういった協業が可能なのか考える際の一助になると思います。
- **グループワークの時間が短い**様に感じました。
- **茶菓子は不要**と思いました。ただ個人的に持ち込んで飲食はできないのでしょうか。
- **討議の時間がもう少し長く取れると良い**と思いました。
- **もう少しディスカッションの時間が欲しかった**です。若しくはグループを増やしてもいいかと思いました。
- 今後**各委員会の先生方**がいらっしゃることが出来れば、方向性や具体的な活動についてご意見を頂戴しながら進められるかと思っています。
- **マイクがあった方が良かった**です

次回取り上げるテーマ (アンケート結果)

- 上記の結果を踏まえ、**的を絞って深掘り**する方向で検討されるのは如何でしょうか。
- **各都道府県**の対策基本法の状況、啓発の方法
- 循環器医療に携わる先生方が感じている、患者様と医療従事者を繋ぐ方法として、我々のような企業が出来る事、望むことなどがあればお伺いしたいと存じます。また、**各自治体の循環器病対策**に対する取り組み及び補助金活用状況や事例があれば参考にさせて頂きたく存じます。
- 協議会内でもあったように、これらの要望・意見を実現するためには**何を優先してどうすればいいか**、をテーマにして議論を重ねたい
- 今回出たアイデアのうち、**早期に成果を出せるもの (low-hanging fruits)**をいくつか選び、希望するプロジェクトに入って具体的な検討を行う。
- 協会の取り組みにより、どのように循環器疾患が変遷していくのか評価するためにはどういったデータを集積し評価していくのか、あるいは既存のデータベースから評価していくのか興味があるところです。協会が考える**調査研究事業**について機会があれば取り上げていただければと思います。
- 協会に期待することは、疾患啓発、研究、と多岐にわたるため、優先順位が高い1つのテーマを絞って、**具体案や方法 (How)**について検討する機会もよいと思います。
- 今回の続き。「どこから進めるか？」はJCAで決めていただき、「**どうやって進めるか？**」をグループディスカッションできればと思います。
- 大変難しいですが取り上げたテーマを実際に**どのように**実行していくか？が良いかと思いました。
- 今回の結果から重要テーマを2~3つ絞り込み、是非**HOW**を議論したい。
- これからだとは思いますが、会員企業の**具体的な**共創事例が示されると、他の企業にとっても考えやすくなると思います。AHAなど海外の事例でもいいかもしれません。
- プレストで概念はいくつかでてきましたので、**具体的なアクション**について
- **具体的に**何から取りかかるか
- **具体的に**産学官で取り組む事業について
- **具体的に**どのアイデアを具現化していくのか

グループ	カテゴリ名	Post It記載
A	協会自体の強化	循環器協会自体の認知+参加のメリット・自分ごと感を上げる→より多くの企業・人が関われる→ロールモデルになれる
A	啓発	(循環器疾患は)他疾患に比べて知名度が低い
A	啓発	心疾患の危険度が理解されていない(死因になりうることは理解されている?)→薬でコントロールできていると思われている
A	都道府県協議会との意見交換	都道府県循環器病対策推進計画の実効性を高めるために、各都道府県の協議会メンバーが情報交換できる研究会の開催
A	JCA各委員会との会合	協会の委員会活動(調査研究、医療連携など)に賛助会員がどのような支援ができるかについて、賛助会員と各委員長・幹事が意見交換できる協議会の開催
A	賛助会員として勧誘したい企業	リハビリ
A	賛助会員として勧誘したい企業	IT(デバイス)
A	賛助会員として勧誘したい企業	IT(セキュリティ)
A	賛助会員として勧誘したい企業	介護施設(ケアマネ)
A	賛助会員として勧誘したい企業	スポーツジム
A	賛助会員として勧誘したい企業	自動車
A	賛助会員として勧誘したい企業	ハウスメーカー
A	賛助会員として勧誘したい企業	食品
B	政策	国の予算↑
B	政策	政策提言
B	政策	国への政策提案
B	政策	国民の声をすいあげて代表になる 産学官に物申す
B	政策	超高齢化時代 心不全パンデミック 人口減少⇒保険制度の見直し
B	政策	健診項目見直し 心電図 聴診 BMP
B	政策	行政とのコラボレーション 例:肺炎球菌ワクチン 心電図測定
B	政策	医療アクセス(バラツキ)の改善 未受診 診断 治療 フォロー クオリティスタンダード ⇒クリニカルスタンダード
B	交流患者	患者様との交流(意見収集)
B	交流患者	患者教育マテリアルの作成(企業協賛)
B	交流患者	日常診療での患者さんの困り事をより把握するための議論の場作製に協力頂きたい
B	協会内	キャラクター作り
B	協会内	患者アクセス可能なAPPプラットフォーム 交流の場
B	協会内	露出(メディア SNS拡散 インフルエンサー)
B	協会内	交流する場(クローズなSNS)
B	協会内	Twitterの情報発信
B	協会内	医業種以外へのアピール
B	協会内	発表する場
B	協会内	年一の飲み会
B	協会内	他社との交流会(まじめ)
B	協会内	企業同士の勉強会 交流会
B	協会内	共通キーワード(例:心不全)で協働
B	協会内	JCAから資材提供
B	協会内	協会による認可認証制度

B	データサイエンス	マイナンバーなど経年的データを活用した研究
B	データサイエンス	医療データ データサイエンス 必要なデータ（疫学 治療薬 検査値）が入手できる
B	データサイエンス	データ 活用可能なもの情報 医療者・企業・患者・家族
B	データサイエンス	協会－企業でのデータ創出活動へのご協力
B	データサイエンス	協会－企業で創出したエビデンスを広める活動において協奏できること
B	データサイエンス	健診データ N D B 国循JROAD⇒統合 解析
B	啓発	疾患予防として色々なアイデアの創出 特に高齢者に対して
B	啓発	啓発の推進
B	啓発	疾患や技術の啓発
B	啓発	心不全に対する啓発活動
B	マルチステークホルダー	自治体との連携
B	マルチステークホルダー	他のステークホルダーとの交流
B	マルチステークホルダー	H PとC Lと患者向けシンポジウム
B	マルチステークホルダー	スポーツの協会との連携
B	マルチステークホルダー	患者アドボケータ育成→C V D協議会
B	マルチステークホルダー	行政－医療連携 医一介
B	マルチステークホルダー	業界の深さと広さ（他の協会）を上回る 患者（個人） 地域連携の強化 国内外からの参画
C	入会企業の活動サポート	疾患講演会演者（地域のKOL的存在）
C	入会企業の活動サポート	Global案件のサポート 開発案件
C	入会企業の活動サポート	患者数の同定・算出の公式アドバイス
C	入会企業の活動サポート	循環器データベース（JROAD他）現状と経時的
C	入会企業の活動サポート	循環器医療課題アンケート（クリニック, Dr, 医療者）
C	入会企業の活動サポート	産学・患者団体が連携した調査研究
C	入会企業の活動サポート	新しい医療の開始時に、保険審査の方々への情報提供の場
C	入会企業の活動サポート	企業のメディカルアドバイザー（患者などからの質問サポート）
C	エビデンスを一緒に作る	ガイドラインにおける重要なエビデンスギャップの特定と、賛助企業とそこを埋めるエビデンス創出
C	エビデンスを一緒に作る	医療資源の効率利用の最大化（EBMのみならずEvidence Creation）
C	協働ツールの作成	デバイス・ドラッグのコラボレーション創出
C	協働ツールの作成	産産連携の心不全啓発ツール
C	協働ツールの作成	心不全アプリの開発 ・発症は？ ・再入院リスクを測定可能
C	協働ツールの作成	相談センター →課題抽出
C	協働ツールの作成	患者さん教育 ノウハウ 共有の場
C	協働ツールの作成	全国共通 心不全連携手帳の作成
C	協働ツールの作成	疾患の啓発サイトの集約（現状、色んな企業が似かよったサイトを複数公開しているので）
C	協働ツールの作成	共通の啓発資材
C	壮大系	医師を増やす 医師を目指す子供への支援
C	壮大系	疾患情報一括管理 マイナンバーカード
C	協会自体の強化	海外の協会とコラボし、ガイドラインの策定（海外との治療格差・是正）

C	協会自体の強化	他学会との連携強化 はたらきかけ
C	協会自体の強化	協会同士のコラボレーション
C	協会自体の強化	多角的な賛助会員の勧誘（アイスブレイクでの分野の企業etc.）
C	協会自体の強化	会員数（医療従事者）をAHA並みにまで増加
C	企業と患者さんをつなげる	患者さんの意見を聞ける場所の提供（patient centric）
C	企業と患者さんをつなげる	患者会と企業とのかけ橋的役割
C	企業と患者さんをつなげる	患者会の創設
C	企業と患者さんをつなげる	患者（家族含む）ニーズの把握・分析・共有（最先端医療の提供のみならず、末端ニーズの把握）
C	企業と患者さんをつなげる	患者さんー企業 もっとコネクト
C	企業と患者さんをつなげる	特定の疾患毎に患者さんの声（こんな時にこんなことで困っている等）を集約頂き、賛助会員には無料で公開
C	企業と患者さんをつなげる	CV患者の声 医療関係者のイニサイト収集 アニメットメディカルニーズの収集
C	一般市民への啓発	国民への情報伝達（予防の重要性etc.）とその効果の計測（PDCA）
C	一般市民への啓発	市民公開講座の定期開催（患者さん向け ご家族向け）
C	一般市民への啓発	一般消費者に対する循環器疾患の啓発
C	一般市民への啓発	市民向けの学術（？）集会主催 規模大きいモノ
C	一般市民への啓発	協会名での心臓健診の勧めを継続的に
C	一般市民への啓発	Web活用 TicToc YouTube Twitter 働く細胞
C	一般市民への啓発	SNS発信（Facebook Instagram TicTok）→若い世代への啓蒙 30秒動画
C	一般市民への啓発	循環器疾患を健康診断から発掘できる仕組み作り
C	一般市民への啓発	子供・若者への教育？情報提供？
C	PR戦略をする	有名人による啓発 Web TV
C	PR戦略をする	みんなでテレビCM 費用負担が下がる
C	PR戦略をする	TVCM ワイドショー
C	PR戦略をする	CM デジタルサイネージ 新聞広告による啓発
C	PR戦略をする	（依然ある）学会と企業のギャップ（距離感）の縮小サポート 例：医療ニーズとモノ・サービス提供の結びつけ
C	PR戦略をする	NCD活動のパートナー
C	PR戦略をする	企業のブランディング
C	PR戦略をする	企業のレピュテーション